

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

- 令和元年12月～令和2年11月の間、地域包括ケア推進会議は各地区で合計18回開催され、特に災害について5つの地区で、新型コロナウイルス感染症と見守りについて4つの地区で議論された。
医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、警察、司法機関、UR管理事務所、小学校等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

令和2年度 第2回 松戸市地域ケア会議
令和3年2月4日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>0. 新興感染症(新型コロナウイルス感染症)</p>	<p>○コロナ禍で感染対策や検査体制などの情報が市民に届きにくい。</p> <p>○コロナ禍で地域の集いの場・活動の場が休止し、フレイルや認知症が進行する恐れがある。</p> <p>○コロナ禍で歯科受診を敬遠する人が増え、口腔衛生が悪化し健康が損なわれる。</p> <p>○新型コロナウイルス給付金関連の詐欺被害がある。</p> <p>○コロナ禍でこころの健康を損なう人が多い。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が出た経験のある事業所等の経験の共有。</p>	<p>○コロナ禍で発熱した高齢者の受診とダブルケアをしている家族の介護負担の事例。</p> <p>○コロナの感染を恐れ、サービス利用を控える高齢者のフレイル予防について。</p> <p>○配偶者の病状や給付金詐欺被害に対する不安により精神状態が不安定になり、うつ状態になった方の支援について。</p>	<p>普及啓発</p> <p>○かかりつけ医を持つことの啓発を強化する。</p> <p>○正しい感染症予防対策や検査体制について情報発信する。</p> <p>○介護予防活動を再開している団体等の情報・感染症予防対策等を情報発信する。(地域ケア会議での議論内容を市民へ発信できるような媒体も活用する)</p> <p>○新しい情報の周知を積極的に行う。(掲示板や回覧板、郵送、電話、SNS等のオンラインの活用)</p> <p>○オレンジパトウォークなどで情報を伝える。</p> <p>○歯科受診の重要性の啓発。</p> <p>○詐欺防止の啓発。</p> <p>○メンタルヘルスチェックの活用促進</p> <p>連携強化</p> <p>○課題の共有と職種間の相互理解を図る場を継続的に設ける。</p> <p>○町会で行っているパトロールなど既存の近所の見守りや助け合いの仕組みづくりを広げる。</p> <p>○近隣施設で見守りのネットワークや活動拠点を構築する。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染予防対策の啓発や検査体制などの情報の周知。</p> <p>○フレイルや心身の機能低下、認知機能の低下等を予防する啓発が必要。</p> <p>○オーラルフレイル予防、歯科受診の重要性の啓発。</p> <p>○詐欺防止の啓発。</p> <p>○心の健康づくりの啓発。</p> <p>○感染発生時の対応等の経験や情報共有できる機会が必要。</p> <p>○高齢者の社会的孤立を防ぐ地域での見守り体制づくり。</p>	<p>明第1 明第2西 明第2東 小金</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>0. 新興感染症(新型コロナウイルス感染症)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症流行に伴う医療・介護事業所による受け入れ体制について、指標がなく対応格差が大きい。フォーマル、インフォーマル関係なく活用できる取り組みの整備が必要。</p>		<p>取組検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインでの集いの場の提供。 ○リモート体操教室を試行してみる。 ○ラジオ体操などの活動を継続的に行うことで、見守りにもつなげる。 ○各町会や管理組合でのネット環境の整備や知識の習得。 ○感染予防の工夫・徹底をした地域活動。 ○各職種において、通常のサービス提供見合わせとなった際の代替策の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインでのつながりの推進。 ○各町会等でネット環境の設備や知識の習得ができるように支援。 ○感染対策を徹底した活動や屋外での作業活動にむけた情報提供。 ○コロナ禍における活動開催時のガイドラインの作成。 ○介護事業所により、サービス提供や受け入れ等に対応格差がありサービスを受けられないケースがある。 ○専門機関同士での情報共有や困りごと、判断に迷った際の相談体制の確立。 	<p>明第1 明第2 西 明第2 東 小金</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
1. 認知症	認知症独居高齢者の地域での見守りと居場所づくりの推進。	身寄りのない認知症独居高齢者。生活保護受給し、成年後見人あり。徘徊があり、施設入所の必要性あるが、本人はアパートから離れたくないという思いが強い事例。	連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地区社協や民生委員と連携し、情報共有を必要に応じて行う。 ○近所の見守り、声かけの推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○通報先（警察等）の周知ポスター等の作成。 ○声かけ方法の周知。 	五香松飛台馬橋

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
2. 介護予防	<p>○口腔内の健康維持が病気の予防や改善に繋がるという認識が乏しく、成人歯科健診・定期的な歯科健診・歯科全体の受診率が低い。</p> <p>○継続的に食事のバランスを指導・モニタリング・評価する機関が必要。</p>	<p>○認知症高齢者の口腔ケアを自宅で継続する方法について。</p> <p>○歯科疾患の重症化や口腔機能・嚥下機能低下を防ぐために多職種で出来ることの検討。</p> <p>○体重減少、口腔内疾患と認知症があり病状把握が困難な方の栄養状態の確認方法や援助の方法。</p>	普及啓発	<p>○「痛くなくても歯科に行く方がいい」という声かけを実施。</p> <p>○子どもの頃から歯科に慣れさせておく。</p> <p>○家族・友人・知人・介護サービス事業者・商店などの口コミで歯科検診の必要性を知らせていく草の根的広報活動の推進。</p> <p>○認知症サポーター養成講座の内容に口腔ケアについて加える。</p> <p>○バランスの良い食事の掲示や周知。</p>	<p>○かかりつけ歯科医師制度や成人歯科健診周知のための広報活動。</p> <p>○歯科の相談窓口の設置。</p> <p>○良い食習慣のイメージづくりや啓発活動。</p> <p>○健診のお知らせ配布。</p> <p>○統一したチェックリスト。</p>	常盤平東部
		<p>○独居、初期認知症で嚥下状態不良の方の誤嚥性肺炎再発防止と栄養状態の改善方法。</p>	連携強化	<p>○栄養士のアドバイス講座の開催。</p> <p>○口腔ケア時に栄養士の同行。</p> <p>○補助食品やサプリメントのアドバイス。</p>	<p>専門職の研修や連携。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑤

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
2. 介護予防	自分で考えなくてもバランスよく食事が摂取できるような購入方法の提案が地域の商店等でも必要。	<p>○生活意欲が乏しく栄養状態が悪化している独居高齢者の生活環境栄養状態の改善の事例</p> <p>○食事提供のあるサ高住に住みながら好きなものばかり食べ、体調を崩してしまう高齢者の事例。</p>	取組検討	<p>○商店などで栄養相談窓口設置。</p> <p>○栄養への取り組みを老人会の中で表彰。</p> <p>○良く取り組む商店の表彰。</p> <p>○大人の地域食堂を作る。</p>	<p>○企業による社会貢献の取り組みを推進。</p> <p>○栄養士との連携。</p>	常盤平
4. 国際	他分野にまたがる支援の促進。		取組検討	外国人コミュニティの場所の情報、および外国語を話せる方の名簿等の検討。	外国語が話せる方の地区別リストの作成等が必要。	五香松飛台

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑥

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
6. 生活支援	<p>○近隣での互助関係が確立しているが、高齢による支援の負担感が増している。独居高齢者に対する生活支援について再考する必要がある。</p> <p>○ごみの分別が上手くできない方への支援方法。</p>	<p>○介護保険サービスの追加利用の提案を受入れず、近隣住民に買物や食事の支援を依存するが、住民も高齢の為、身体的、精神的に辛くなってきた事例。</p> <p>○認知症によりごみを出す曜日が分からずごみを出すことが出来ない。家族が関わりや支援を拒否している事例。</p>	連携強化	<p>○商店街や薬局が協賛するイベントなど若い世代の担い手を取り込むきっかけ作りを企画する。</p> <p>○若い世代を取り込んだ互助組織など新たな社会資源の創出を提言する。</p>	<p>○大学と連携して団地への若い世代の誘致。</p> <p>○高齢者の団地契約時、包括等への情報共有の仕組みづくり。(URとの調整)</p>	常盤平団地 馬橋西 馬橋
			取組検討	<p>○団地の地域特性を生かした「買い物サービス」「ワンコインボランティア」などのインフォーマルなサービスを充実化させる。</p> <p>○ごみ出し問題については、国立環境研究所の「高齢者ごみ出し支援ガイドブック」「高齢者ごみ出し支援事例集」の中から、地域で参考に出来るものが無いかを今後アンケート調査を行い検討していく。</p>	<p>○生活困窮者自立支援制度の利用促進。</p> <p>○他市で実施しているごみ出し支援「ハンディキャップシール」「分別免除シール」等を参考に、ごみ出し支援や分別方法について、松戸市独自の取り組みを検討。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑦

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
8. 居場所づくり	<p>○男性介護者を孤立させないために、地域の通いやすい居場所が必要。</p> <p>○男性介護者の中には、介護を抱え込み、周りに相談ができなかったり、家事の経験がないこと等から介護負担が増しているケースがある。</p> <p>○生活意欲を向上させるため、独居になった高齢者が孤立しないように日中の活動先や居場所づくり、共同生活ができる場所、断酒会等同じ課題を持った人が集う場が必要。</p>	<p>子から「周りから大変そうに見えるかもしれないが、自分達は大変が当たり前でやってきた。それがいけない事でしょうか」と話があった事例。</p>	<p>取組検討</p>	<p>○介護者の集いなど、男性が集まって話ができる場を作る。</p> <p>○現在行っているサロンの一層の充実。</p> <p>○地域包括や地域でケアメンカフェを実施する。</p> <p>○集会場での映画上映など誘いやすい、参加しやすいイベントの開催。</p> <p>○歩いて行けるサロンやコミュニティスペースの検討。</p>	<p>○男性介護者が集い、情報交換や相談ができる場が必要。</p> <p>○居場所づくり開催に向けた研修会や運営のための助成。</p> <p>○8050問題への対策。</p>	<p>常盤平 六実六高台 新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑧

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する 個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
9. 見守り	世代に関わらず、困った時の相談場所の周知が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との関係が希薄で医療拒否の事例 ○本人の自立したい思いと、必要な医療の部分の整合性が取れておらず、介入拒否が続く事例。 ○何らかの精神疾患が疑われるが生活は自立している。ご近所とのトラブルなどもあり、周りの関わりを拒否している。 	実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ○SOSを出せない人の数や様々な拒否がある人を把握する。 ○近所で気にかけている人は必ずいるはずなのでそういった方の把握や本人の生活パターンをつかんでいく。 	特に集合住宅では、誰がどこに住んでいるかの把握が困難。	東部 五香松飛台 六実六高台 新松戸
			普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○回覧板の手渡しを普及啓発。 ○相談協力員の普及啓発。 ○皆護ネットワークの普及啓発とリスト作成。 ○地域包括や相談窓口の周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括や福祉まるごと相談窓口の周知。 ○町会加入について、転入時支所等窓口での推奨。 ○相談協力員活動についての市民への普及啓発。 ○子ども世代からの介護教育。 	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑨

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
9. 見守り	<p>○サービス拒否、医療拒否、近隣との付き合いが少ない、親族もおらず（又は疎遠）で、困った時に頼れる人がいない方への介入方法。</p> <p>○訪問拒否のある方への関わり方。</p>	<p>本人のサービス拒否があり、介護をしている配偶者が疲弊している事例</p>	連携強化	<p>○地域住民及び関係機関での緊急時の連絡体制、情報共有の場が必要。</p> <p>○地域の見守り体制の強化。（電気のオン・オフ確認等）</p>	<p>重層的な見守りネットワークの構築の推進。</p>	<p>東部 五香松飛台 六実六高台</p>
			取組検討	<p>オレンジパトウォーク等の活用や拒否がある等特定の人を把握し見守りをする様な団体の構築。</p>	<p>見守り団体はボランティアではなく、補助金等による事業の検討。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑩

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10.災害	<p>○住民同士の関係が希薄であり、要援護者の把握が出来ていない。</p> <p>○簡易トイレや電気自動車などの物資の備蓄・活用状況等の把握。</p> <p>○災害時、どこに避難をするか、誰に連絡をするか等事前に意識を高める事が必要。</p>	<p>80代夫婦世帯。転倒を機にリハビリを行いながら、エレベーターのない集合住宅で生活している。配偶者は移動に支援が必要。地域との関わりが介護サービス以外で必要と思われる事例。</p>	実態把握	<p>○住民名簿を作成し、マンション内で要援護者を把握する。</p> <p>○地域の避難所や利用できる設備を知る。</p> <p>○SOSカード等の普及や物資の備蓄状況を把握する。</p>		<p>本庁 矢切 常盤平団地 五香松飛台 新松戸</p>
			普及啓発	<p>○大規模災害を想定した日頃の準備（自助）の周知啓発。</p> <p>○避難場所の確認。</p>	<p>○災害時のガイドブックの周知や、住民に向けた自助（準備・備え）の重要性の啓発。</p> <p>○災害時対応等の住民講習会の開催等。</p>	

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑪

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10. 災害	<p>○災害時の対応や防災について情報共有やネットワーク構築、連携が必要。</p> <p>○団地在住の独居高齢者や高齢者世帯などが大規模災害で被災した場合、どのように支援していくか、関係機関で連携できる体制づくりが必要。</p>		連携強化	<p>○地域の既存防災組織と連携し、より具体的な体制づくり。</p> <p>○支援関係機関のネットワーク化をするため、定期的な意見交換や情報提供を行う。</p> <p>○自治会、UR、民生委員等の連携の強化。</p> <p>○ケアマネ研修会や担当者会議の際に避難場所や災害時の対応について確認する。</p> <p>○SOSカードやお薬手帳の活用、介護、医療との連携。</p>	<p>○災害時の迅速な情報共有と指揮系統のマニュアル化、各課協力体制の見える化。(母子、高齢、障害)</p> <p>○避難所等への移送方法の検討。</p>	<p>本庁 矢切 常盤平団地 五香松飛台 新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑫

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
10. 災害	<ul style="list-style-type: none"> ○住民間で防災についての意識の共有が図れておらず、マンション全体としての取り組みがない。 ○自治会に加入していないマンションも多く、地域とのつながりが少ない。 ○災害時の安否確認。 ○斜面林等の地形を含めた避難困難者への対応。 		取組検討	<ul style="list-style-type: none"> ○他のマンションの防災事例や取り組みを知る機会をつくる。 ○マンション内での交流や防災について話し合う機会を設ける。 ○緊急対策活動を行う防災組織を設立する。 ○災害マップを作成する。 ○車両が使えない場合はスクーター等での支援を検討。 ○地域包括の災害時マニュアルを見直し作成する。 ○災害時に担当するマンションや生存確認する人を事業所で決めておくなど、介護事業所が連携できるシステムをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の取り組みと好事例の集約、発信。 ○災害時に行政、地域包括、地域の関係機関と住民組織が必要な情報を共有できるシステムづくり。 ○避難行動に支援を要する人が移動の際にスムーズに移動できる仕組みの検討。 ○詳細な避難命令。 	本庁 矢切 常盤平団地 五香松飛台 新松戸

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑬

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例		(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
11. 医療・ 介護 連携	在宅ケアに関する啓発。		普及 啓発	○ACPの普及啓発。 ○終活の普及啓発。	在宅医療介護連携支援センターの周知。	五香松飛台
12. 成年 後見	○権利擁護について自らの問題として関心をもつことが必要。 ○意思決定支援が必要な人がしかるべき機関につながる必要がある。 ○本人の立場に立った意思決定支援。	○高齢独居で身寄りがない。家賃や公共料金滞納あり。救急搬送を機に介護保険、後見制度を利用し施設入所した事例。	普及 啓発	意思決定支援の重要性、後見制度や日常生活自立支援事業などについて周知する。	成年後見制度の普及啓発。	小金原
		○身寄りのない独居高齢者が体調を崩し認知機能低下。民生委員から相談が入り支援開始するが、経済困窮、生命維持にかかる疾患が見つかり意思決定が困難な状況だった事例。 ○共に認知症の高齢夫婦世帯。金銭管理困難で、本人は身体障害がある配偶者の介護が困難。住み慣れた自宅での生活継続を希望している事例。	連携 強化	○民生委員、介護、医療、地域包括で支援チームを構築。 ○医療、介護保険サービスへのつながりを夫婦の気持ちに寄り添って行う。		

別添

各地域包括ケア推進会議における 参加者・議題・議論

明第1地区推進会議（令和2年11月20日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月20日 (金) 14:00~ 16:00	町会	1	医師	3	ケアマネ	1	コロナ禍における医療・介護の対応の実情と課題
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師	3	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	2	グループホーム	2	
	高支連		医療相談員	1	地域包括	6	
			理学療法士	1	市役所	1	
			警察	1	NPO職員	2	
			消防		傍聴者市職員	1	
					合計	29人	

（2）議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
<p>新型コロナウイルス感染症流行に伴う医療・介護事業所による受け入れ体制について指標となるものがなく対応格差が大きい実情がある。その為、必要な医療・介護サービスが受けられないケースもみられ、対応指標の整備をしていく必要がある。</p>	<p>コロナ禍で発熱した高齢者の受診とダブルケアをしている家族の介護負担の事例</p>	○	<p>○課題の共有と職種間の相互理解を図る場を継続的に設ける。 ○掛かりつけ医を持つことへの啓発を行う。 ○衛生指導の啓発を行う。 ○各職種において、通常サービス提供見合わせとなった際の代替策の検討を行う。</p>	<p>○三師会や関係職能団体等と連携し、基準となる対応指標や、それを導き出すチェックリスト、フローチャートなどの作成。 ○困りごとや判断に迷った際の相談体制の確立。</p>

明第2西地区推進会議（令和2年11月11日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月11日 （水） 19：00～ 20：30	町会		医師	1	ケアマネ	5	1. 地域ケア会議への意見・提案 2. 地域ケア会議の情報発信力強化のために 3. コロナ禍における地域の集いの場・活動の場の再開状況と課題
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護	2	
	民生委員	1	看護師		訪問介護	1	
	ボランティア		作業療法士	1	訪問看護	1	
	高支連	1	医療相談員		地域包括	6	
			理学療法士	1	市役所	3	
			警察		特別養護老人ホーム	1	
			消防		小規模多機能	1	
					合計	29人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域ケア会議に参加していない地域の住民・専門職への地域ケア会議の情報発信が不足している。		○	「地域ケア会議ニュース（仮称）」を発行して、各委員が地域に情報発信する。	
イ	新型コロナウイルス感染症の影響で地域の集いの場・活動の場が休止しフレイルや認知症が進行する恐れがある。		○	正しい感染症対策や活動を再開している団体等の情報・感染症予防対策等を情報発信する。（「地域ケア会議ニュース」も活用する）	
ウ	新型コロナウイルス感染症が出た経験のある事業所等の貴重な経験を今後に備えて聞いておきたい。		×		情報共有できる機会を作ってもらいたい。

明第2東地区推進会議（令和2年11月18日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月18日 (水) 17:45~ 19:15	町会	3	医師	1	ケアマネ	7	1.コロナ禍における各団体・事業所の活動状況について 2.コロナ禍で新たに始まった活動について 3.グループワーク討議 ①コロナ禍における高齢者の活動の場について ②コロナ禍における高齢者の見守りについて
	地区社協	1	歯科医師	2	介護事業者	7	
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	1	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	8	
			理学療法士	1	市役所	3	
			警察		生活支援コーディネーター	1名	
			消防				
					合計	37人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	コロナ禍における高齢者の活動の場について		○	○新しく始まった活動の周知を積極的に行う（掲示板や回覧板の活用） ○ラジオ体操を行う活動場所を作る	オンラインでつながる方法の確立のため、端末などの貸し出しや助成制度があると推進されるのではないかと
イ	コロナ禍における高齢者の見守りについて		○	○ラジオ体操などの活動を継続的に行うことで、見守りにもつながるのではないかと ○既存（町会で行っているパトロール）の近所の見守りや助け合いの仕組みづくりを広げられないかと	

本庁地区推進会議（令和2年11月18日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月18日 (水) 14:00~ 16:00	町会	1	医師	2	ケアマネ		1.地域づくり交流会「マンション+コミュニティプロジェクト」開催報告 ・まつどNPO協議会 生活支援コーディネーター 2.地域課題検討「マンションの防災とコミュニティ」 ・事例紹介「防災・減災講座」一般社団法人減災ラボ ・グループワーク 災害時のマンショントイレを題材に「困る人は誰か」「困る人への対応」「対策・準備」について議論 3.松戸市地域ケア会議の報告
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	1	
	市社協		薬剤師		福祉用具	1	
	民生委員		作業療法士	1	訪問看護	1	
	ボランティア		看護師	2	グループホーム	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	5	
	まつどNPO	1	理学療法士		市役所	2	
			警察		マンション住民6名、成年後見関係事業所1名、在宅医療介護連携1名、		
			消防				
				合計	27人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	住民間で防災についての意識の共有が図れておらず、マンション全体としての取り組みがない。		○	○マンション内で独自の防災組織を立ち上げる。 ○他のマンションの防災事例や取り組みを知る機会を作る。 ○マンションの中で防災について話し合う機会を設ける。	
イ	住民同士の関係が希薄であり、要援護者の把握が出来ていない。また、対応できる人材がいない。		○	○住民名簿を作成し、マンション内で把握できるようにする。 ○イベントなどを開催し、住民同士が顔を合わせる機会を作る。 ○介護事業所が連携できるシステムを作る。災害時に担当するマンションや実際に生存確認する人を事業所で決めておく	災害時に、行政、地域包括、地域の関係機関と住民組織が必要な情報を共有できるシステムづくり。

本庁地区推進会議（令和2年11月18日開催）

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	自治会に加入していないマンションも多く、地域とのつながりが少ない。		○	<ul style="list-style-type: none"> ○マンション内で交流や緊急対策活動を行う組織の設立。 ○マンション交流会を通じて近隣のマンションともつながりをつくる。 ○地域や町会等で開催されるイベント等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。 ○地域の避難所や利用できる設備を知る。 ○地域ケア会議を活用し、日頃から住民と地域の関係機関が支え合える関係性を構築する。 	

矢切地区推進会議（令和2年1月23日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
1月23日 (木) 13:30～ 15:30	町会	2人	医師		ケアマネ		1. 矢切地区の防災の取り組みについて（矢切地区社会福祉協議会） 2. 松戸市の防災について（松戸市危機管理課） 3. 避難運営 HUG（避難所運営疑似体験ゲーム、グループワーク） 4. その他（質疑応答等）
	地区社協	2人	歯科医師		介護事業者		
	市社協	2人	薬剤師		福祉用具		
	民生委員	1人	看護師		定期巡回		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	5人	
			作業療法士		市役所	3人	
			警察		認知症対応型共同生活介護1人 通所介護 1人 作業療法士 1人		
			消防				
					合計	18人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	矢切地区における災害時の対応や防災について情報共有やネットワーク構築、連携が必要。		○	○地域の既存防災組織と連携し、より具体的な体制づくりのための協力をしていく。 ○包括の災害時マニュアルを見直し作成する。	災害時の迅速な情報共有と指揮系統のマニュアル化、各課協力体制（母子、高齢、障害）の見える化。

矢切地区推進会議（令和2年11月11日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月11日 (水) 18:30~ 20:30	町会	1	医師	1	ケアマネ	2	1、昨年の防災についての推進会議を経て包括が取り組んだことについて 2、矢切地区の防災や災害時の活動について 町会長連合会（会長）、地区社会福祉協議会（会長）、矢切地区民生委員・児童委員協議会（会長）よりお話をいただく。 3、防災クイズ（アイスブレイク） 福祉避難所等について情報共有する。 4、グループワーク 「個別、コミュニティ、行政」に分けて今出来ること、活動していることやあったらいいこと（課題やニーズ）について話し合い、情報や課題などの「見える化」を行う。
	地区社協	3	歯科医師		介護事業者		
	市社協	2	薬剤師	1	通所介護	5	
	民生委員	6	作業療法士	1	特養・小規模多機能	4	
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
	まつどNPO法人	1	理学療法士		市役所	2	
			警察				
			消防				
				合計	33人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	物資などの備蓄 ・電気自動車等の活用 ・簡易トイレ不足 SOSカードの活用 お薬手帳等の情報		○	SOSカード等の普及や物資の備蓄については地域で連携可能。	
イ	斜面林等の地形を含めた避難困難者への対応		○	車両が使えない場合はスクーター等で支援を検討、近所住民との交流や災害について話し合う機会をもっと増やす。	移動手段困難者への取り組み (地域住民だけでは限界がある)
ウ	災害時の安否確認について		○	SOSカードやお薬手帳の活用、介護、医療との連携	緊急時の要援護者等の開示や共有等の個人情報の取り扱いについて

東部地区推進会議（令和2年9月9日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月9日 (水) 14:00~ 15:30	町会		医師	1	ケアマネ	4	地域での見守りをより強固にするために ～個人情報共有のあり方について～
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連	3	医療相談員		地域包括	3	
			理学療法士		市役所	2	
			警察		NPO法人。2、生活支援 コーディネーター。1		
			消防				
					合計	19人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域から孤立しないよう、介護保険サービスだけでなく通いやすい居場所が必要。		○	現在行っているサロンの一層の充実	居場所作りの学習会開催や運営のための助成
イ	世代に関わらず、福祉・医療分野などで困った時の相談先の周知が必要。				地域包括や福祉まるごと相談窓口の周知

常盤平地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月19日 (木) 13:30~ 15:30	町会	4	医師	2	ケアマネ	6	1. 課題 口腔内の健康維持が病気の予防や改善に繋がると言う認識が乏しく、成人歯科健診・定期的な歯科健診・歯科全体の受診率が低い。 2. 本人に寄り添いながら継続的に食事のバランスを指導・モニタリング・評価する機関が必要。自分で考えなくてもバランスよく食事が摂取できるような購入方法の提案が地域の商店等でも必要ではないか。 3. 生活意欲を向上させるため、独居になった高齢者が孤立しないように日中の活動先や居場所づくり、共同生活ができる場所、断酒会等同じ課題を持った人が集う場が必要ではないか。
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師	2	通所介護	0	
	民生委員	1	看護師	0	認知症デイ	0	
	ボランティア		保健師	2	グループホーム	0	
	高支連		医療相談員	4	地域包括	4	
			理学療法士	1	市役所	2	
			社会福祉士	0	栄養士:2人 司法書士:1人 NPO協議会1人		
			消防	0			
					合計	38人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	口腔内の健康維持が病気の予防や改善に繋がると言う認識が乏しく、成人歯科健診・定期的な歯科健診・歯科全体の受診率が低い。	自宅で口腔ケアを継続して実践することが難しい認知症高齢者について口腔ケアを自宅で継続する方法 在宅における歯科疾患の重症化や口腔機能・嚥下機能低下を防ぐために多職種で出来ることを検討したい	× ○	○痛くなくても歯科に行く方がいいよという声かけ ○もの心つく前に、子供のころからから歯科に慣れさせておく ○草の根的広報活動… 家族・友人・知人・介護サービス事業者・商店などの口コミで歯科検診の必要性を知らせる ○地域での広報活動として、ケアマネからの声掛け ○認知症サポーター養成講座に口腔ケアが大切と入れ込む ○認知症とフレイルの関係や口腔ケアの関係を話す	○多職種連携加算 ○かかりつけ歯科医師制度 ○成人歯科検診の周知のための広報活動 ○歯科の相談窓口の設置 ○健診のお知らせ配布 ○専門職への研修

常盤平地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	<p>本人に寄り添いながら継続的に食事のバランスを指導・モニタリング・評価する機関が必要。</p> <p>自分で考えなくてもバランスよく食事が摂取できるような購入方法の提案が地域の商店等で必要。</p>	<p>体重減少がみられるが、口腔内の疾患と認知症があり病状把握が困難な方の栄養状態の確認方法、援助の方法について</p> <p>独居、初期認知症で嚥下状態不良の方の誤嚥性肺炎再発防止と栄養状態の改善方法について</p>	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士のアドバイス講座開催 ○商店などで栄養相談窓口設置 ○食支援イベント ○バランスの良い食事の掲示 ○コンビニのサロン化 ○地域包括チラシをコンビニにおく ○食事栄養表示、メニュー表記をもっとわかりやすく ○栄養への取り組みを老人会の中で表彰 ○口腔ケア時に栄養士の同行 ○補助食品やサプリメントのアドバイス ○良く取り組む商店の表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ○統一したチェックリスト ○良い食習慣のイメージづくりや啓発活動 ○管理栄養士出張サービス ○介護医療に加え栄養など相談連携する場所 ○企業による社会貢献の取り組みを推進 ○市から栄養士への協力要請 ○栄養士が地域へ出ていける仕組み
ウ	<p>生活意欲を向上させるため、独居になった高齢者が孤立しないように日中の活動先や居場所づくり、共同生活ができる場所、断酒会等同じ課題を持った人が集う場が必要。</p>	<p>生活意欲が乏しく栄養状態が悪化している独居高齢者の生活環境、栄養状態の改善について</p> <p>食事提供のあるサ高住に住みながら好きなものばかり食べ、体調を崩してしまう高齢者に対しストレスを感じずによい体調を維持できる方法はないか。</p>	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで野菜を作り、売る ○大人の地域食堂を作る ○昼間の居酒屋で血圧測定、居酒屋のママに注意してもらえる場所づくり ○集会場での映画上映 ○誘いやすい参加しやすいイベント ○コミュニティスペース ○安くて居心地の良い喫茶店 ○歩いて行けるサロン ○薬局内にコミュニティスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ○カフェ常設の場を公的に提供 ○公的コミュニティスペースを作る ○カフェにソーシャルワーカー常駐配置 ○日中のみでよいので公的な共同生活の場を作る ○ふらっと立ち寄れるフラットな場のスペース確保 ○独居高齢者用回覧板を町会に依頼する ○傾聴ボランティア育成

常盤平団地地区推進会議（令和2年2月6日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
2月 6日 (木) 13:30~ 15:00	町会	4人	医師	1人	ケアマネ		地域との関わりの少ない独居高齢者や高齢者世帯等の支援を大規模災害などの時にどのようにしたらよいかといった課題について、参加者間で課題検討を行った。また、支援関係機関が有事の際にどのような役割を果たすのか情報共有する必要性があるため、本会議の議題とした。
	地区社協	1人	歯科医師	1人	介護事業者		
	市社協		薬剤師	1人	通所介護 (センター長)	1人	
	民生委員	3人	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループ ホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3人	
			理学療法士		市役所	1人	
			警察		URコミュニティ1人 介護支援専門員4人 作業療法士1人/福祉用具1人 訪問看護1人/司法書士1人		
			消防				
					合計	25人	

（2）議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア 団地在住の独居高齢者や高齢者世帯などが大規模災害で被災した場合、どのように支援していくか、関係機関で連携できる体制づくりが必要	80代夫婦2人世帯。転倒を機にリハビリを行いながら、エレベーターのない集合住宅で生活している。配偶者のADLは向上しているが、移動に支援が必要。地域との関わりが介護サービス以外で必要と思われる事例。	○	自治会、UR、民生委員等の連携の強化。	○災害時のガイドブックの周知や、住民に向けた自助（準備・備え）の重要性の啓発。 ○災害時対応等の住民講習会の開催等

常盤平団地地区推進会議（令和2年9月3日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月3日 (木) 13:30~ 15:00	町会	2	医師	1	ケアマネ	2	近所の付き合いがお互いの高齢化により負担となり、困難な場面が見え始めている。高齢化に伴う、団地に住む独居高齢者の生活サポートについて考える。
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協		薬剤師	1	福祉用具	1	
	民生委員	2	看護師	3	訪問看護		
	ボランティア		保健師		デイサービス管理者	2	
	高支連		医療相談員	1	地域包括	3	
	まつどNPO法人		理学療法士		市役所	1	
			警察		その他（UR管理事務所）1		
			消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	近隣での互助関係が確立しているが、支える側、支えられる側相互の高齢化によって支援の負担感が増し、支えられる側も空虚感が見え隠れしている。住民の高齢化に伴う独居高齢者に対する生活支援について再考してみる時期である	80代独居。訪問介護サービスを週1回利用。介護保険サービスの追加など提案を受入れず、80代の近隣住民に買い物や食事の支援など依存傾向にある。支援者は高齢の為、身体的、精神的に辛くなってきたことを民生委員に相談している	○	○商店街や、薬局など協賛のイベントなど若い世代の担い手を取り込むきっかけ作りを企画する ○若い世代を取り込んだ互助組織など新たな社会資源の創出を提言する ○団地の地域特性を生かした「買い物サービス」や「ワンコインボラ」などのインフォーマルなサービスを充実化させる	○大学と連携して団地への若い世代の誘致 ○高齢者の団地契約時、包括等への情報共有の仕組みづくり（URとの調整） ○グリーンケアの一環としてストレングスを生かし地域活動へつなぐ仕組みづくり ○生活困窮者自立支援制度の利用促進

五香松飛台地区推進会議（令和元年12月26日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
12月26日 (木) 13:30～ 15:30	町会	5人	医師	2人	ケアマネ	5人	【1部】 (1) 事例説明 (2) グループワーク (3) 発表 【2部】 (1) 地域作り交流会報告 (2) グループワーク (3) 発表
	地区社協	1人	歯科医師	1人	介護事業者		
	市社協	1人	薬剤師	1人	通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1人	グループホーム		
	高支連	6人	医療相談員		地域包括	6人	
	五香松飛台皆護ネットワーク	3人	理学療法士	1人	市役所	1人	
			警察		小学校関係2人 生活相談員 1人 障害者相談室 1人		
			消防				
					合計	38人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	近隣関係が希薄になっている中での地域での見守り・安否確認の難しさ		○	○回覧板の手渡しを普及啓発 ○地域の支援者として相談協力員の普及啓発	相談協力員の活動を市内に啓発
イ	多分野多問題を抱えた事例に対する関係機関との連携した支援の必要性	○多問題家庭の事例	○	○学校との連携を図るため、地域ケア会議への出席を継続 ○外国人コミュニティの場所の情報、および外国語を話せる方の名簿の検討	外国語が話せる方の地区別リスト作成
ウ	疾患を抱えながら在宅で生活する方を支えるための在宅ケアに関する普及啓発の必要性		○	○本人の意思がしっかりしている状態で終末期に対する本人の選択を前もって決めておけるよう、ACP・終活の普及啓発	

五香松飛台地区推進会議（令和2年9月3日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月3日 (木) 13:30~ 15:30	町会		医師	1	ケアマネ	6	【1部】 (1) 事例説明 (2) グループワーク (3) 発表 【2部】 (1) アンケート結果発表 (2) 災害についてのグループディスカッション (3) 発表
	地区社協	2	歯科医師		介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師	1	福祉用具		
	民生委員	2	作業療法士	1	訪問看護		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	2	管理栄養士	1	地域包括	6	
	まっどNPO法人	1	理学療法士	1	市役所	1	
	青少年プラザ	1	障害支援機関	1			
			小学校関係	3			
					合計	33人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	コロナ禍で外出自粛が続いている中、従来通りの地域の見守りが行えない	○地域との関係が希薄な事例 ○医療拒否の事例	○	○医療、福祉の専門職で構成している皆護ネットワークの普及啓発とリスト作成	○決められた時間に外に出る、外を見る事の啓発
イ	コロナ禍で認知症の発症予防や重症化予防の活動が難しい	○コロナ禍にて社会参加の場が減少した事例	○	○密を避けるなど感染症対策に配慮した上で移動体操教室を行う	○開催時のガイドラインを作成して欲しい。
ウ	災害時の住民同士の互助、協力体制整備が必要		○	○災害対応に関する普及啓発と災害マップ作成	○災害時の取り組みと好事例を集約し発信して欲しい

六実六高台地区推進会議（令和2年11月18日開催）

（１）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月18日 (水) 13:30~ 15:30	町会		医師	1	ケアマネ	7	1.参加委員の自己紹介 2.地域ケア会議について 3.令和元年度 地域包括支援センターの活動報告 令和2年度 地域包括支援センターの活動報告 4.令和元年度上半期 地域個別ケア会議・松戸市地域ケア会議の報告 5.課題検討：男性介護者を孤立させないために地域でできることは何か。 6.次回以降の地域ケア会議について 7.その他
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	5	
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連	1	医療相談員		地域包括	4	
			理学療法士		市役所	1	
			警察		NPO	1	
		消防		理学療法士	1		
				合計	24人		

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	男性介護者を孤立させないために地域でできることは何か	本人のサービス拒否があり、介護をしている夫が疲弊している事例	○	○介護者の集いなど、男性が集まって話ができる場を作る。 ○近所の人声が声掛け、見守りをできるように働きかけていく。	○将来のことを考えて、子どもの頃から介護教育を行っていく。 ○市でも8050問題への対策を考えて支援していく。

小金地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月19日 （木） 10：00～ 12：00	町会	1	医師		ケアマネ		1) 開会の挨拶 2) 各委員自己紹介 3) 小金地域個別ケア会議の報告 4) コロナ禍における医療連携と介護予防について 5) その他 6) 事務局より 7) 総括
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	2	
	小学校	1	理学療法士		市役所	9	
	歯科医院		警察	1			
			消防				
					合計	17人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	コロナ禍で感染対策や検査体制などの情報が市民に届きにくい。	コロナを理由に必要な支援につながらない事例。	○	○電話やメール、郵送で情報を伝える。 ○個別の見守りネットワークを構築する。 ○オレンジパトウォークなどにて情報を伝える。	○専門機関同士で情報共有し、各窓口で豊富な情報を住民に提供できるように連携を図る。 ○個人情報特定されない工夫をして感染状況を伝える。
イ	コロナ禍で高齢者の出かけられる場所がないなど、介護予防が難しい状況にある。	コロナを理由に行き場がなくなった事例と、コロナを理由にサービス利用を拒否された事例。	○	○電話、LINE、インターネットなどオンラインの活用 ○オンラインでの集いの場の提供 ○感染予防の工夫・徹底をした地域活動 ○近隣施設で見守りの活動拠点作り	○オンライン講習会 ○オンラインでの集いの場主催者の交流 ○オレンジファームなどの屋外での協働作業活動

小金地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（2）議論のまとめ

ウ	<p>コロナ禍でこころの健康を損なう人が多い。</p>	<p>配偶者の施設入所で独居となり不安感が出てきたところにコロナ禍が重なり、自殺企図にまでつながった事例。</p>	○	<p>○本人に共感する関り。 ○独居高齢者や子どもの異変に気付く見守り</p>	<p>○メンタルヘルスチェックの活用促進。 ○相談窓口の紹介</p>
エ	<p>○コロナ禍で歯科受診を敬遠する人が増えた。 ○口腔衛生の悪化から健康が損なわれる。</p>	<p>コロナを理由に受診控えしている事例。</p>	○	<p>○歯科受診の重要性の啓発</p>	<p>○オーラルフレイル事業の展開 ○医科歯科連携の促進</p>
オ	<p>新型コロナウイルス給付金関連の詐欺被害がある。</p>	<p>コロナ禍の不安に付け込み、独居高齢者が詐欺被害を受けた事例。</p>	○	<p>○個別の見守りネットワークの構築 ○詐欺防止の啓発</p>	<p>○詐欺被害対策情報の発信</p>

小金原地区推進会議（令和2年11月13日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月13日 （） 16：30～ 17：45	町会		医師	2	ケアマネ	1	1. 前年度地域包括ケア推進会議振り返り 2. 意思決定支援について地域から5事例、個別ケア会議から6事例 3. グループワーク『意思決定支援を受ける立場で考えよう』（KJ法） 4. 権利擁護の制度やサービスについて
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協	2	薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	2	看護師		訪問介護	1	
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	6	
	オレンジ協力員	1	社会福祉士	1	市役所	2	
	防災部		警察		行政書士 1 生活支援コーディネイ 1		
	支所		消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	意思決定支援が必要な人がしかるべき機関につながる必要がある。	身寄りのない独居男性が体調を崩し認知低下が心配された。民生委員から包括に相談が入り支援開始。経済困窮、生命維持にかかる疾患が見つかり意思決定が困難な状況だった。	○	民生委員、宗教関係、介護、医療、包括で支援チームを構築。	代理意思決定をおこなう際のルール化（マニュアル整備）ができればよい。
イ	意思決定支援においては本人の立場に立って支援が行われるべきである。	共に認知症の高齢夫婦世帯。金銭管理が困難で、本人は身体障害のある配偶者の介護が困難。住み慣れた自宅での生活継続を希望。	○	医療、介護保険サービスへのつながりを夫婦の気持ちに寄り添って行う。金銭管理は支援チームで行う。	成年後見制度につながるまでの間の金銭管理支援をどうするかのルール化（マニュアル整備）ができればよい。

小金原地区推進会議（令和2年11月13日開催）

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	地域が権利擁護について自らの問題として関心をもつことが重要である。	高齢独居で身寄りがない。家賃や公共料金滞納あり。救急搬送を機に介護保険申請。独居に不安を感じていたことから後見制度を利用し施設に入所。	○	意思決定支援の重要性、後見制度や日常生活自立支援事業などについての周知を行う。	制度利用が必要な人が迅速に利用できる。

新松戸地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
11月19日 (木) 10:00~ 11:30	町会		医師	1	ケアマネ	2	1.新松戸地域包括支援センター活動報告 2.地域課題の検討 ①防災マップについて ②ケアメン・カフェについて ③コロナ禍の体操教室について 3.松戸市の地域ケア会議の報告
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員	1	地域包括	3	
			理学療法士	1	市役所	1	
			警察		その他：5		
			消防		商店・NPO：2		
					合計	24人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	男性介護者の中には、介護を抱え込み、周りに相談ができなかったり、家事の経験がないこと等から介護負担が増しているケースがある。	子が独自の介護方法をしており、様々な介護サービスや介護方法の提案をするも、受け入れてもらえなかった。	○	○地域包括主催でケアメンカフェを3月に開催予定。 ○地域でも男性介護者支援ができるように支援を行う。	○町会やアパートは特に誰がどこにいるかの把握が困難な事が多い。町会への介入について転入時などに、支所等の窓口での推奨。 ○個人情報利用の制限緩和の仕組み作り。
イ	コロナ禍で大人数で集まったの体操が行いにくい。フレイルや介護予防の為に、運動を行う機会を増やすことが必要。		○	○リモート体操のお試しについて、希望を確認しながら行い、できる箇所を増やしていく。 ○各町会や管理組合でのネット環境整備や知識の習得。	○各町会等でネット環境の整備や知識の習得ができるように支援。 ○市で専用の動画（体操、啓発）を作り配信。

新松戸地区推進会議（令和2年11月19日開催）

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	災害時に備えて、どこに避難をするか、誰に連絡をするか等事前に意識を高める事が必要。		○	<ul style="list-style-type: none"> ○各家庭にマップを配布して各々が自分で避場所を書いてもらう。 ○ケアマネ研修会や担当者会議で避難場所や災害時の対応について確認する機会をもつ。 ○町会等に今回作成したマップについて説明をし、希望があれば配布し周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難の際には、自治体側で何時間以内に避難するようになど目安になるものがあると良い。 ○福祉避難施設や移送方法についての定期的な周知。

馬橋西地区推進会議（令和2年11月27日開催）

（1）参加・議題

日時	参加者						議題
11月27日 （金） 19：00～ 20：30	町会		医師		ケアマネ	3	認知症、ゴミ問題、訪問拒否、サービス拒否、医療拒否、近隣との付き合いが少ない、親族もおらず（又は疎遠）で困った時に頼りになる人がいない、家族と連絡が取れない、孤独死といった困難事例に対して、地域でどういった支援ができるのか。
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	2	
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			理学療法士		市役所	2	
			警察		保健福祉センター：1 NPO協議会：1		
			消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 （①に関係する個別事例がある場合に記入）	③地域での 解決の是非 （○・×）	④地域での対応方針 （③が○の場合に記入）	⑤市レベルで期待すること （任意記入）
ア	サービス拒否、医療拒否、近隣との付き合いが少ない、親族もおらず（又は疎遠）で困った時に頼りになる人がいない方への介入方法	本人の自立したい思いと、必要な医療の部分の整合性が取れていない。介入拒否が続き、結果としては自宅玄関で倒れ亡くなっていた。	○	○地域住民及び関係機関での緊急時の連絡体制が不十分であった。情報共有の場が必要。 ○地域の見守り体制の強化。（電気のオン・オフ確認） ○オレンジパトウォーク等の活用や拒否がある等特定の人を把握し見守りをする様な団体の構築。	○見守り団体はボランティアではなく、補助金などを利用が出来て事業として運営出来る様になると良い。

馬橋西地区推進会議（令和2年11月27日開催）

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	訪問拒否のある方への関わり方	何らかの精神疾患が疑われるが生活は自立している。ご近所とのトラブルなどもあり、周りの関りを拒否している。	○	○SOSを出せない人の数や様々な拒否がある人の割合を把握する。 ○近所で気にかけている人は必ずいるため、そういった方の把握や本人の生活パターンの確認。 ○本人や周りに対して地域包括や相談窓口の周知。	
ウ	認知症があり、ごみの分別が上手くできない方への支援方法	ごみを出す曜日が分からずごみを出すことが出来ない。家族が関わりや支援を拒否している。	○	ごみ出し問題については、国立環境研究所の「高齢者ごみ出し支援ガイドブック」「高齢者ゴミ出し支援事例集」の中から、地域で参考に出来るものが無いかを今後アンケート調査を行い検討していく。	他市のごみ出し支援の「ハンディキャップシール」「分別免除シール」等を参考に松戸市独自の取り組みが出来ないか。

馬橋地区推進会議（令和2年9月3日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
9月 3日 (木) 9:30~ 11:00	町会		医師		ケアマネ		1. 地域に住む認知症独居高齢者の見守りと居場所づくりをどのように推進するか。 ・認知症独居高齢者に必要な見守りを地域に求めていくためにどうしたらよいか。 ・地区社協や民生委員との協力はどのように行うことができるのか。 ・声掛けはどのように行っていけばうまくできるのか。 2. 高齢者に関わるごみ出しについて、どのように支援するか。 ・それぞれの意見と、今行っていることがあるかどうか。 ・その他のインフォーマルサービスについて。 ・地域の町会との協力について。
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	4	
	市社協		薬剤師	1	訪問介護	1	
	民生委員	2	看護師		デイサービス	1	
	ボランティア		保健師	1	看多機	2	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			理学/作業療法士	2	市役所	2	
			警察		NPO協議会：1		
			消防		合計		
						19人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域に住む認知症独居高齢者の見守りと居場所づくりをどのように推進するか。	身寄りのない認知症独居高齢者。生活保護受給し、成年後見人あり。徘徊があり、認知症対応施設に入所の必要があるが、本人はアパートから離れたくないという思いが強く、入所時期の判断が難しい。	○	○近所の見守り、地域の目が大切であるので協力を求めていく。 ○地区社協では見守り活動があり、民生委員とも連携し常に見守り活動をしているので、情報の共有は必要に応じて行う。 ○声掛けに迷うケースもあると思うが、積極的に声掛けを行うべき。	○一般の人にもわかるような啓発活動の必要性がある（誰が本当に困っている人なのか区別できるサインや、どこに通報していいのかがわかるポスターなどを作成する） ○声掛けの方法マニュアルがあるといい。 ○声をかけていい人が男女共通ではっきりわかる目印を作るよう検討してもらいたい。

馬橋地区推進会議（令和2年9月3日開催）

（２）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	高齢者に関わるごみ出しについて、どのように支援するか	80歳代独居高齢者。脳動脈瘤によるめまいの症状があり、認知症の周辺症状があり。庭先での猫の餌付け、残飯のごみ出しをせず、近隣とのトラブルや介護サービスの支払金額のトラブルなどを起こしている。現在、看多機が毎日1回の安否確認の訪問をしているが、どのように支えるか。	○	<p>○民生委員の仕事として「日常的支援」があるので、今でもゴミ出しの手伝いをしている。必要あるケースは協力してもらう。</p> <p>○高齢者でなくてもごみの分別が大変である。外国人も増えている、分別できない。地区社協でごみに関する委員会があり、外国人を集めて分別の勉強会をやって改善が見られたので、そのような知識を共有していく。</p> <p>○有償ボランティアの存在を知っている人が少ない。有償でもいい方なら利用を提案していく。</p> <p>○町会もごみ分別には協力し、対応していくことができる。</p>	<p>○高齢者だけでなく、発達障害のある方などごみの分別が困難な方へのごみ出し支援や分別方法の再検討が必要。</p> <p>○ごみ袋の購入が負担になっている高齢者もいるので、無料配布する。</p>